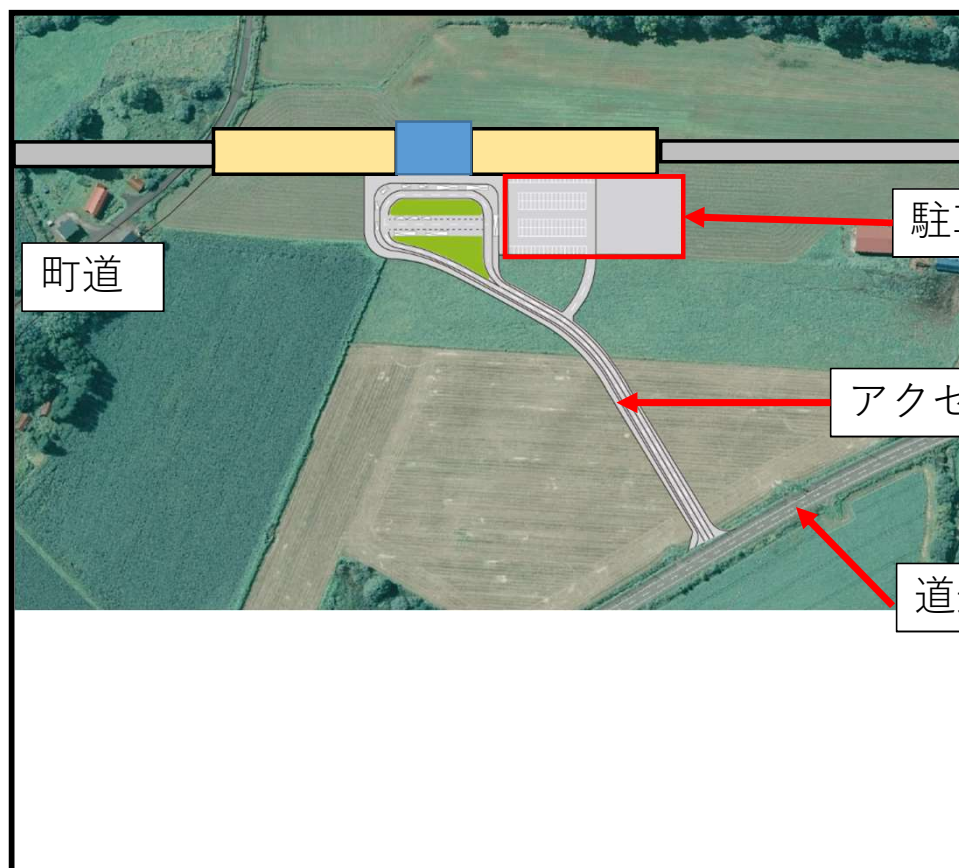


# 新八雲（仮称）駅における取組報告

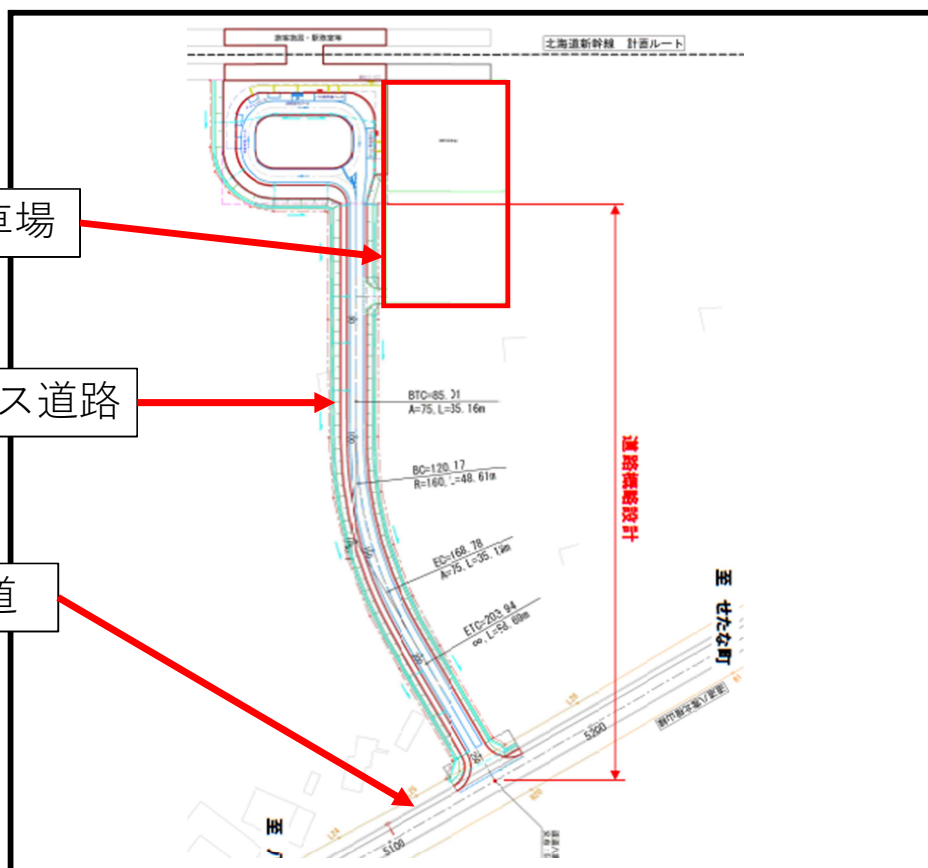
八雲町 新幹線推進室

# 1. アクセス道路およびロータリーについて

## 基本計画策定時



## 概略設計後



※駅周辺整備を検討するための資料であり、規模や位置等が確定したものではありません。

八雲町新幹線推進室(令和4年7月27日)

## その他町の方針について

### ✓ ロータリー内の整備について

①建物、工作物を作らない

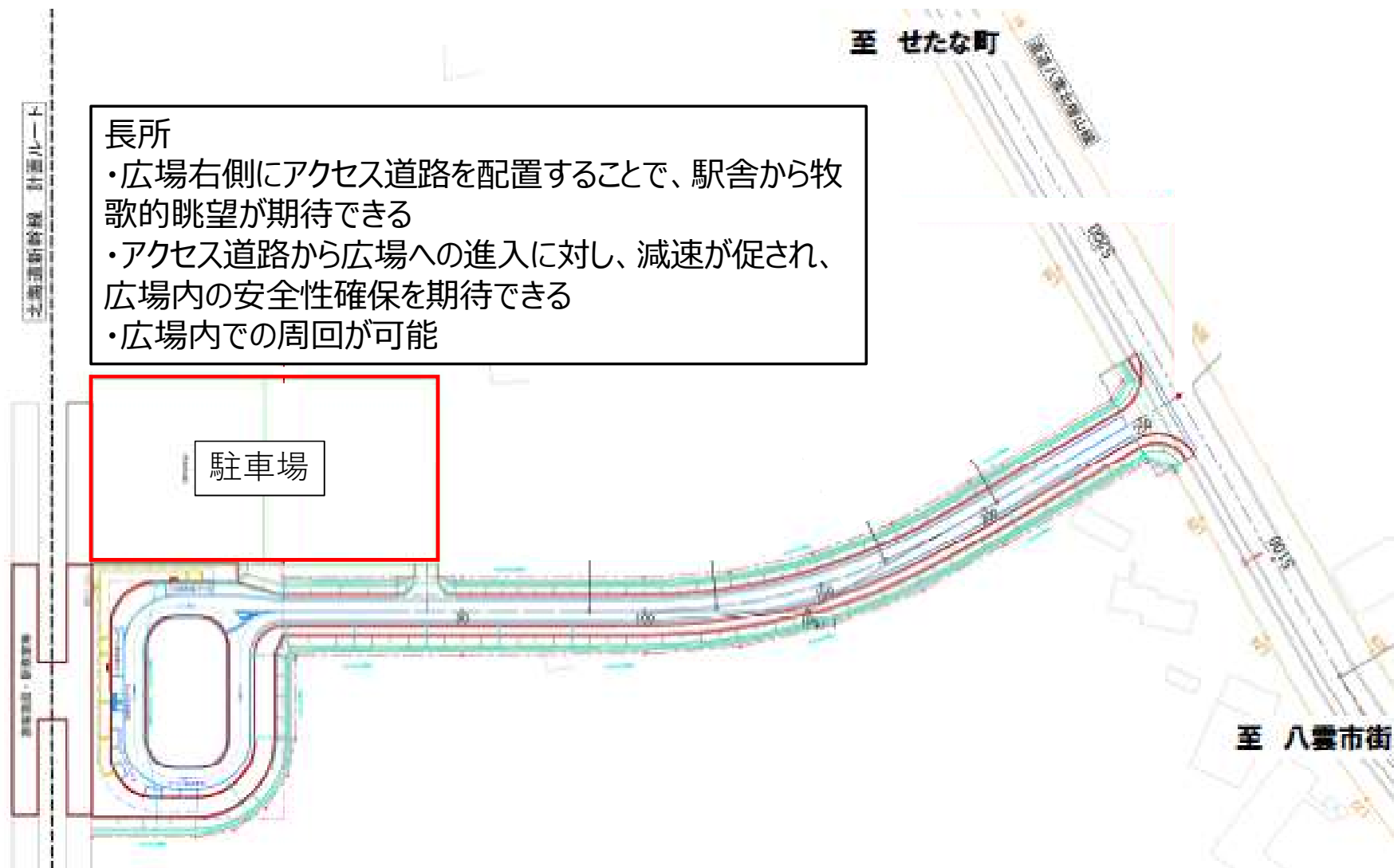
②短期駐車場等（常時、車が入る）の整備は困難

（道公安委員会:ロータリーに交差点が生じることは認められない）

今後、整備主体である北海道と協議等を行っていく

### ✓ 高架下の利用について、主に財政面の観点から断念する方針

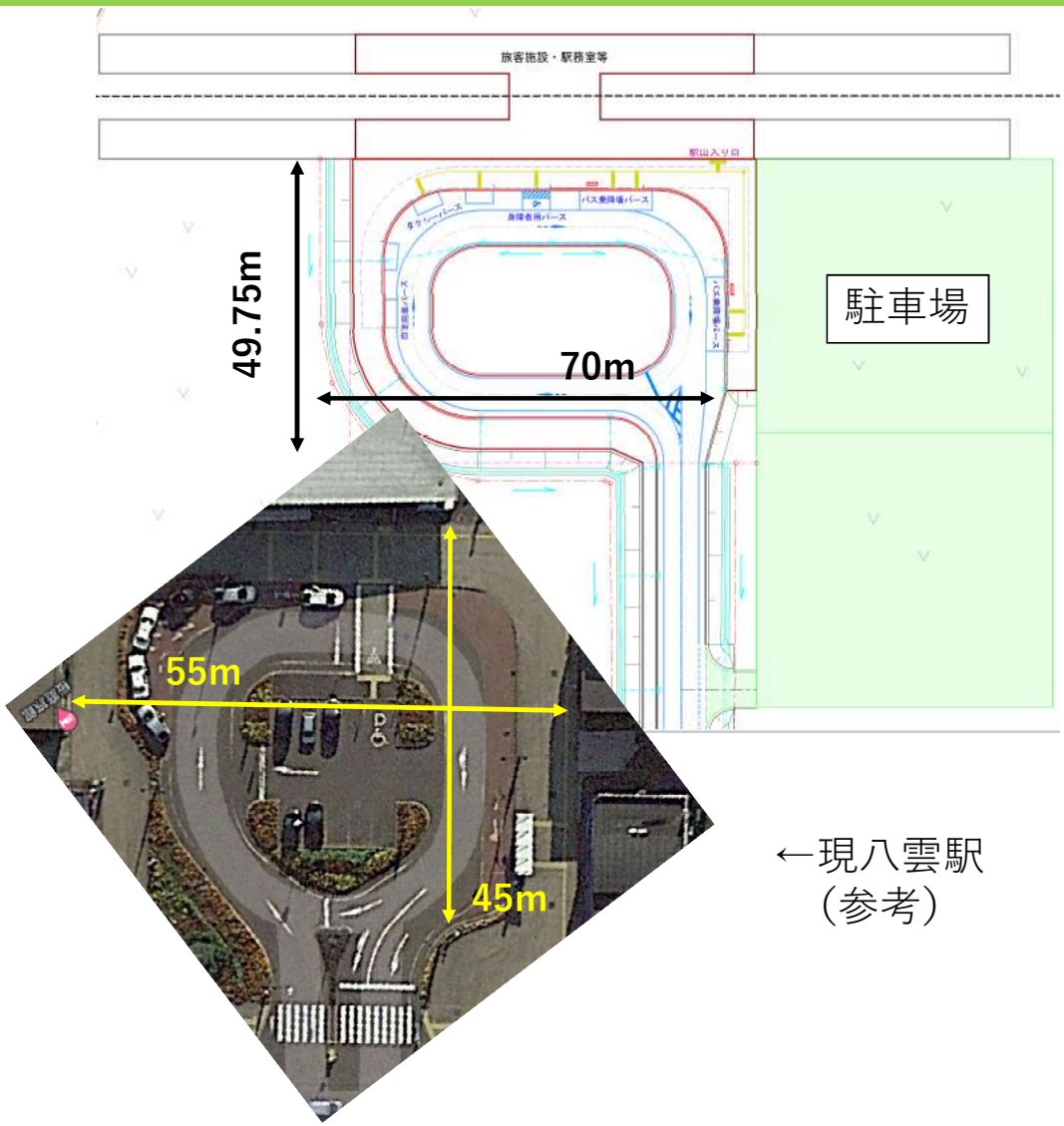
## 2. アクセス道路について



※北海道提供資料に追記・修正をしたもの

八雲町役場新幹線推進室(令和4年5月19日)

### 3. ローター形状について



← 実施設計

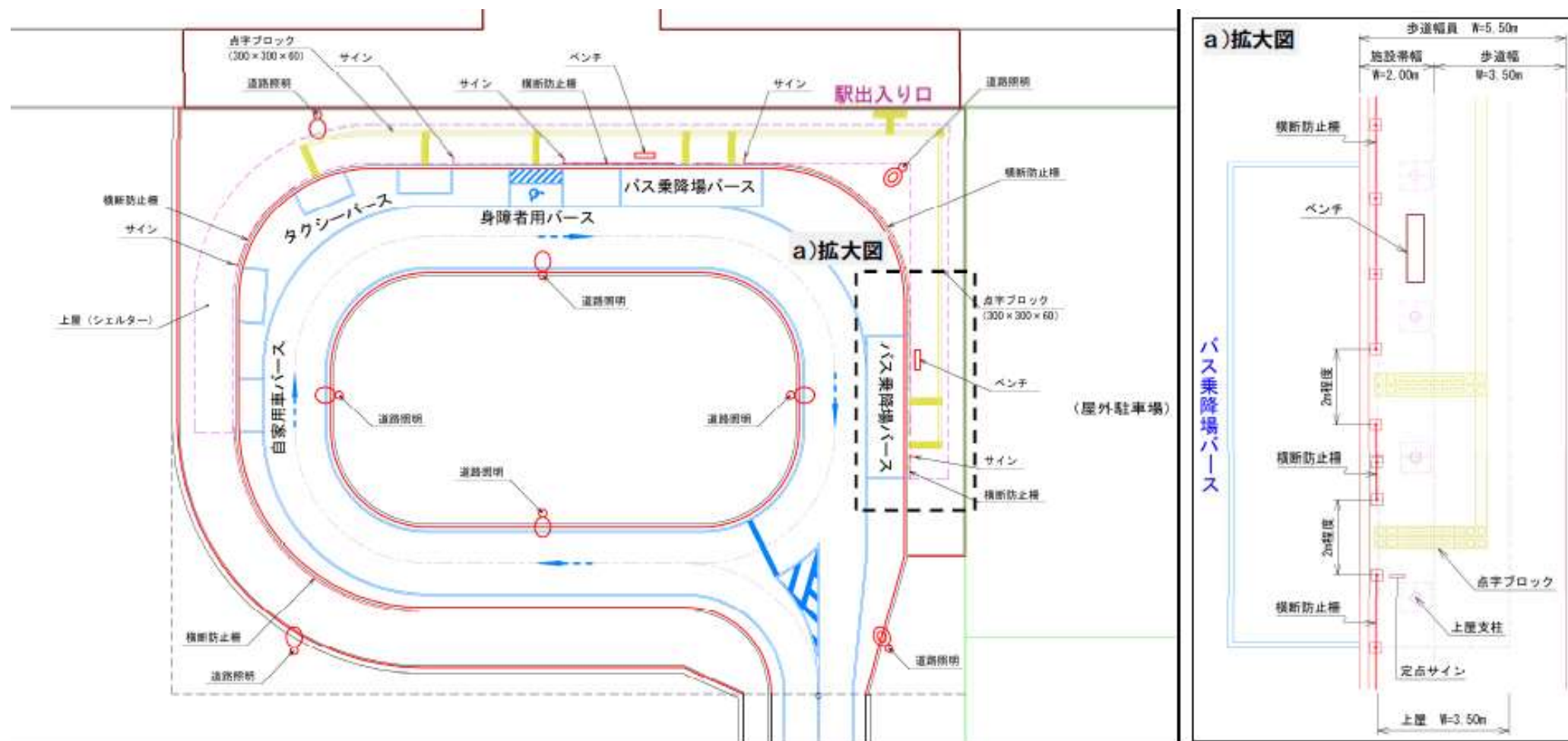
凡 例

: 八雲町整備範囲

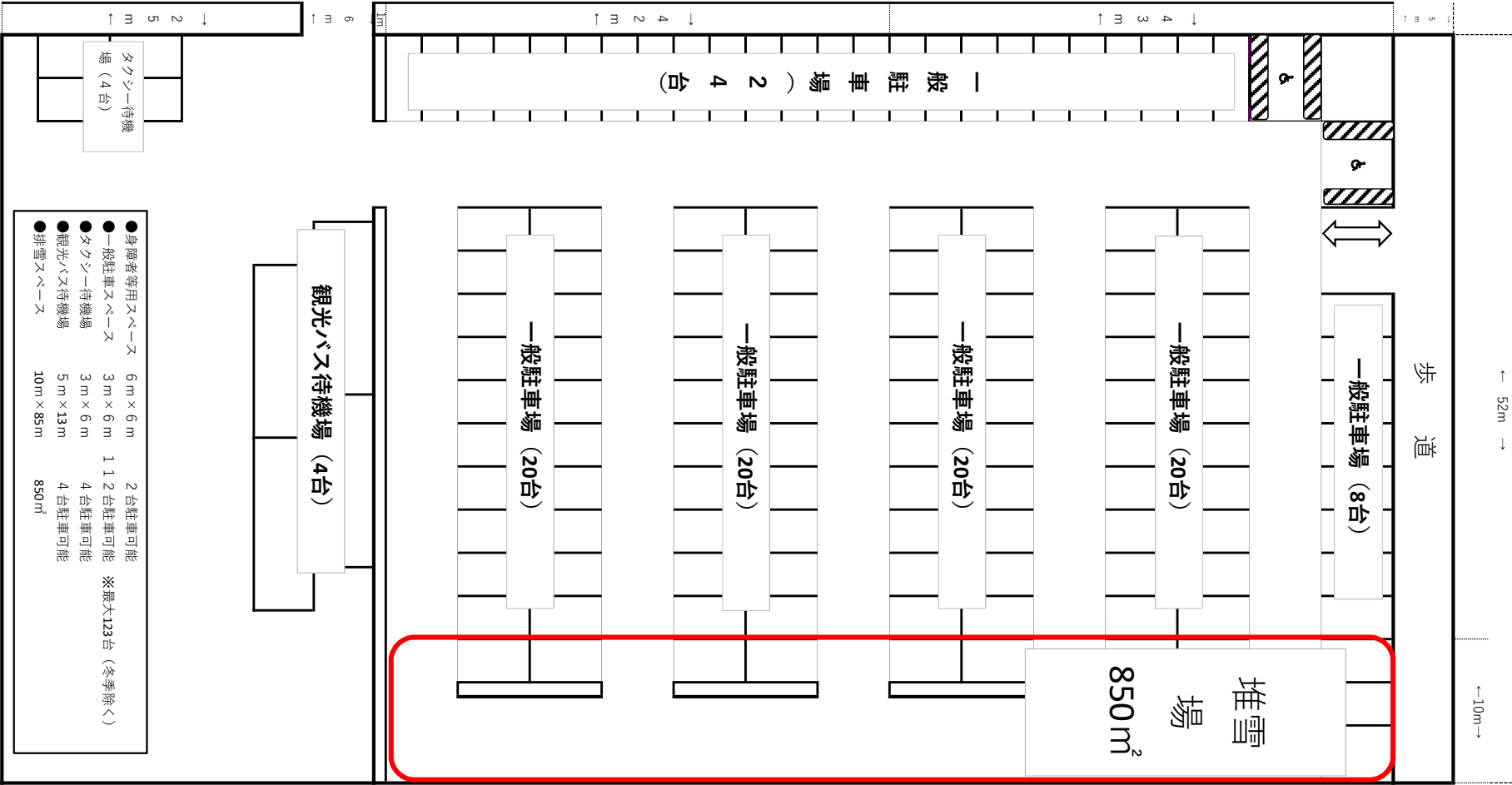
| 項目   |                 | 基本計画 | 本設計  |
|------|-----------------|------|------|
| バス   | 乗車バス数           | 4バス  | 1バス  |
|      | 降車バス数           |      | 1バス  |
| タクシー | 乗車バス数           | 2バス  | 1バス  |
|      | 降車バス数           |      | 1バス  |
|      | タクシー駐車台数        | 10台  | —    |
| 自家用車 | 乗降バス数           | 4バス  | 2バス  |
|      | 駐車台数<br>(短期間駐車) | 20台  | —    |
| 車道幅員 |                 | 3m   | 5.5m |
| 歩道幅員 |                 | 5m   | 5m   |

※北海道提供資料に追記・修正をしたもの

## 4. ローラー形状について（詳細）



屋外駐車場案 (6,344㎡)



- 身障者等用スペース 6m×6m 2台駐車可能
- 一般駐車スペース 3m×6m 112台駐車可能 ※最大123台 (冬季除く)
- タクシー待機場 3m×6m 4台駐車可能
- 観光バス待機場 5m×13m 4台駐車可能
- 排雪スペース 10m×85m 850㎡



# 1. 北海道新幹線新八雲（仮称）駅 デザインコンセプト作成経緯について

| 策定年月     | 今までに策定した計画等            |  |
|----------|------------------------|--|
| 平成12年3月  | 新幹線八雲駅を核とした地域振興計画      |  |
| 平成18年12月 | 北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備構想   |  |
| 平成28年2月  | 北海道新幹線新八雲（仮称）駅等整備方針    |  |
| 平成31年3月  | 北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画 |  |

○北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画（平成29年度～平成30年度の2か年で策定）

町民懇談会 計3回開催

中学生、高校生との懇談会 計4回開催（計32名の中高生が参加）

新幹線駅を八雲らしくするには？などといった観点で懇談。

八雲らしさとは、農業、酪農、二つの海に囲まれている、自然豊かといった意見が多かった。

これらを踏まえ、基本計画における基本理念は、周辺の風景に調和した「牧場の中にある駅」となった。



## 2. デザインコンセプト作成 令和3年度における取組内容

表. デザインコンセプト要望書の提出までの経緯

|   | 日にち           | 内 容                       |
|---|---------------|---------------------------|
| ① | 令和3年8月20日     | 推進会議においてデザインコンセプトについて議論   |
| ② | 令和3年8月20日～    | 推進会議における審議内容を基に骨子案を調整     |
| ③ | 令和3年11月1日～30日 | 骨子案を町広報およびHPで町民から意見公募     |
| ④ | 令和3年12月       | 事務局にて再検討、デザインコンセプト（素案）を策定 |
| ⑤ | 令和4年1月        | 推進会議（書面開催）で素案に対する意見聴取     |
| ⑥ | 令和4年2月10日     | 総務経済常任委員会（議会）へ報告          |
| ⑦ | 令和4年2月22日     | 鉄道・運輸機構へデザインコンセプト要望書を提出   |
| ⑧ | 令和4年2月22日     | 町HPにてデザインコンセプト要望の内容掲載     |
| ⑨ | 令和4年4月        | 4月広報にて内容掲載                |

# 北海道新幹線新八雲（仮称）駅 デザインコンセプト 要 望 書



令和４年２月

北海道 二海郡 八雲町

## 北海道新幹線新八雲（仮称）駅舎の整備について

北海道新幹線新函館北斗・札幌間の整備については、令和１２年度末の開業に向けご尽力賜り感謝申し上げます。

また、本町において、新幹線体験乗車ツアーを催した際、定員を大幅に超える申込みがあり、昨年については北海道新幹線開業５周年という記念の年となり、町民の新八雲（仮称）駅開業への期待も高まっております。

本町におきましては、平成１７年に旧八雲町と旧熊石町が合併、日本で唯一の太平洋と日本海の二つの海を持つまち、二海郡八雲町として誕生しました。本町は、函館、室蘭より７０ｋｍ圏内に位置し、道央と道南、太平洋と日本海を結ぶ国道が通り、北海道縦貫自動車道八雲ＩＣが在するなど交通の要衝となっており、国、北海道の行政機関の立地や商業の集積、八雲総合病院を中心とした地域医療により、広域的な中核都市としての役割を担っております。

新幹線新八雲（仮称）駅に係っては、平成１２年３月、「新幹線八雲駅を核とした地域振興計画」の策定を皮切りに平成１８年１２月、「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備構想」、平成２８年２月、「北海道新幹線新八雲（仮称）駅等整備方針」、そして平成３１年３月には「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」を策定しました。この基本計画では、道南北部の広域連携拠点を基本理念とし、駅周辺の風景に調和した「牧場の中にある駅」をキーワードに、土地利用計画、交通計画及び各種施設のデザイン計画等を含めた駅周辺地区の整備基本計画の具体的な方向性を示すこととしております。

このような状況の中、新八雲（仮称）駅は、太平洋と日本海の双方にまたがる本町の立地特性がより効果的に発揮され、医療、経済、産業など、より広域的、持続的な活性化に資するとともに、これからの施策を展開するうえで重要な役割を果たすことになるものであり、本町を象徴する駅となるよう大きく期待されております。

本町への来訪者が、八雲町へ来て良かった、全国的に見ても稀有な駅がある町、あえて降りたくなる町、また、再び八雲町を訪れたいと思ってもらえる、そして、町民が交流し、効率のかつ広域的な活動のスタート地点となる駅になることを願い、新八雲（仮称）駅舎のデザインコンセプトを別紙のとおり取りまとめましたので、駅舎の建築にあたっては、その内容を反映して下さいようお願い申し上げます。

令和４年２月

八雲町長 岩村 克昭

## 牧場の中にある駅

～二つの海をもつ八雲の大地にたつ、牧歌的風景に調和したシンプルな駅～

### 附帯意見

- ・道南木材をふんだんに使用した温もりを感じ、木漏れ日が溢れる駅
- ・伝統的な牛舎を彷彿させ、北海道の大地を感じる駅
- ・駅舎内から広い視野で見渡せるガラス張りの駅
- ・シンプルで周囲の牧歌的風景に溶け込む駅

| 時代感 | イメージ   | 形状   | 色合い | その他                      |
|-----|--------|------|-----|--------------------------|
| 伝統的 | 落ち着いた  | シャープ | 黄色  | 周囲の景観に溶け込む<br>（目立たなくて良い） |
| 近代的 | 親しみやすい | 直線的  | 緑色  | 開放感溢れる                   |
|     | 故郷を感じる | シンプル | 灰色  | 窓が大きく広い                  |
|     | 四季を感じる | スリム  | 濃灰色 | サケが上る川が見える               |
|     | 温もりのある |      |     | 道南木材の使用                  |
|     |        |      |     | バリアフリーに配慮                |

上表は、町内各産業団体、一般公募から組織された北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議の委員から「牧歌的風景」、「牧場の中にある駅」とはどういったイメージを持っているかアンケートを取った結果でありますので、ご参考いただければと存じます。

なお、各委員からのアンケート回答（原文のまま）についても次ページに掲載しておりますので、併せてご参考いただければと存じます。

### （１）イメージについて

- ・外観全体がレンガ造りの牛舎のようだと重苦しい感じになるような気がします。レンガの面を取り入れるとしても、部分的なストライプにするとか、現代的なデザインと融合させる方が？
- ・落ち着いた 親しみやすい
- ・落ちついた、たたずまいで四季を感じることのできる駅舎にしてほしい。
- ・緑に囲まれ、広々とした、開放感溢れる酪農の町。駅から、放牧が見られ、サケが上る川が見られ、八雲の顔が見える
- ・八雲らしい親しみやすい心に残る駅舎
- ・故郷を感じる 四季を感じる 懐かしさを感じる ほのぼのとした

### （２）シンボル、形状について

- ・サイロのイメージを一部取り入れた駅舎がよいと思います。
- ・ホームは高い位置にあるので、簡素で、近代的で、スリムで、シンプルな形状で、窓が大きく広い、ホームからでも、山・川・草原・放牧風景が見渡せる。
- ・駅舎を一度見て又見たくなる様な角ばった駅舎
- ・曲線 シンプル やわらかい 近代的デザインとの融合 モダン
- ・シンプルで周囲の風景にとけこむような建物。ことさら目立つ必要はない。

### （３）その他

- ・海外の駅舎も含め、駅舎の参考になるものがあれば、イメージしやすくなると思います。
- ・駅前広場に、八雲町の四季で見られる草原園風の散策を兼ねた花壇があればよいかも。
- ・駅からすぐに車で音名川のサケを見に行ける道路があればよい。
- ・内部は道南木材を使ったやわらかな（温かみのある）形状が良い。バリアフリーに配慮し動線が無駄にならないようにしてほしい。
- ・サイロを彷彿した駅舎